

「金沢まつりをつくりあげる過程一つひとつが思い出 伝統を繋いでいきたい」



金沢まつり実行委員会委員長
横井 正巳(よこい まさみ)さん

金沢まつりは今年で第46回を迎える予定でしたが、残念ながら「花火大会」「いきいきフェスタ」とも中止となりました。花火大会が中止となるのは平成23年に発生した東日本大震災以来2回目です。苦渋の決断でしたね。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためには、やむを得なかったのですが、ギリギリまで悩みました。どうにか工夫して開催する方法はないか、事務局とも何度も話し合いましたね。花火大会の起源は「悪霊退散」祈願とも言われていますし、こんな時だからこそ地域が元気になってもらいたいとの思いから、開催したかった。

私は長きにわたり実行委員長を務めていますので、思い出はたくさんありますね。イベントは1日ですが、そのための準備は3月の実行委員会から始まっています。4月からは協賛金の依頼を実行委員会の委員の皆様と行政と一緒に進めています。企業・団体や自治会町内会からの協賛金、当日来場された皆様からの募金、当日の会場運営、警備等々。本当に地域でつくりあげている金沢まつりです。それを、これだけ長く続けられている金沢区民の力を誇りに思いますし、つくりあげるこれら一つひとつの過程が私にとっての思い出です。

実行委員長として、そして一区民として、これからも金沢まつりの伝統を大切に繋いでいきたいと思っています。

「『ニッパツのフィナーレの花火は いつも素晴らしい』の声が嬉しい」



日本発条株式会社 総務部広報グループ
斉藤 浩明(さいとう ひろあき)さん

当社は長年にわたり、地元企業として協賛させていただいています。

金沢まつり花火大会は、地元企業が数多く協賛する地域密着型の花火大会だと思います。多くの方が花火を楽しんでいる光景を見ると嬉しく感じます。会場の「海の公園」は、打ち上がる花火までの距離が近く、砂浜に寝そべて観賞できるなど、気楽に楽しめるのも都市型の花火大会にはない楽しさだと思います。

「ニッパツのフィナーレの花火はいつも素晴らしい」との声をいただくとやっぱり嬉しいです。

私自身は、金沢区にある当社の本社に転勤して25年になりますが、「金沢まつり花火大会」の担当者として、長年にわたり携われていることを嬉しく思います。これからも地元・金沢区の夏の一大イベントとして、ずっと継続されることを願っています。また、金沢区には、東洋最大ともいわれる工業団地があり、2つの大学もあります。こうした立地を最大限に生かし、産・学・官を結集して「オール金沢区」としてのイベントに盛り上げていけたら素晴らしいと思います。